

所 報 龍 潭

第15号 昭和61年 3 月



沖縄県立教育センター

も く じ

教育センターの動き.....	1	昭和60年度研究発表.....	8
教育情報センター構想について.....	2	昭和60年度長期研修員と研究テーマ.....	10
研修を終えて.....	4	職員人事異動者.....	13
長期研修を終えて.....	5	おもな図書資料紹介.....	14
研修を終えて.....	6		

教育センターの動き

所 長

漢 那 用 全

1 移転について

昭和59年2月に移転先沖縄市与儀の国体主会場隣に教育センター用地の土地造成工事が開始され、その竣工や並行して進められた情報処理教育センターの建築、昭和60年9月には教科・経営研修課及び庶務課の入る本館と宿泊棟が着工し、3月には落成することになりました。更に昭和61年度には理科、家庭、技術等のための科学棟と特殊教育棟の2棟が予算計上され来春3月を目標に完成することになり、教育センターは名実ともに移転を完了する運びとなりました。

その概要を次にまとめますと、

- (1) 土地 位置 沖縄市与儀 587 番地
面積 23,078㎡ (昭和60年2月造成)
- (2) 情報処理教育センター (昭和59年10月完成)
面積 1,079 ㎡
- (3) 本館 4階建 (昭和61年3月完成予定)
面積 2,699 ㎡
宿泊棟 (昭和61年3月完成予定)
面積 860 ㎡
- (4) 科学棟 (昭和62年3月までには完成予定)
面積 2,100 ㎡ (予 定)
特殊教育棟 (昭和62年3月までには完成予定)
面積 1,100 ㎡ (予 定)

昭和61年度中は理科研修課(家庭を含む)は首里当蔵の現有施設を利用することになり、この1年間は所謂二重世帯にならざるを得ないので、利用者も若干の不便がある。

2 研究室の増設と研修事業について

新しくできる本館には新に英語(LL教室)、音楽、美術、幼児教育、僻地教育等の研究室が予定されており、今回英語、音楽、美術が開設されることになり、研究主事の配置とともに短期研修

を始めることになるでしょう。教育庁内における組織機構改革等に伴い、研修体系、事業のみなおしが行われようとしています。研究室の増加に伴い学校指導課や保健体育課等でなされた研修事業も形をかえて本センターに吸収されてくることとなる。この一年は過渡期であり、十分な体制が確立されないままスタートしなければならぬので若干の不自由を克服して事業を進めなければならないと思っている。

県教育委員会教育主要施策8本柱の一つとして教職員研修の充実があげられており、移転整備も教職員研修事業推進もその表れである。長期研修員が年間100名を越すのは全国でもまれである。これと並行している短期研修は年間100講座約2,000名の実績となっているが、今後はこれを更に拡充して研修希望者の希望がかなえられるように、また全教員に研修の機会を与えるため、4～5年に一度は教育センターでの研修ができるよう計画する必要があると思う。

3 国立教育研究所とのオンラインについて

去る3月10日情報処理教育課の研修成果発表会のとき、国立教育研究所教育文献情報データベースのオンラインによる情報検索の公開実験が実施され、九州で、はじめてのオンライン化に成功した。本センターと教育庁、各教育機関、各学校とオンラインで結ばれるのもそう遠くはない。ご苦労された方々に敬意と感謝の意を表します。

教育情報センター 構想について

情報処理教育課長

安 室 肇

1 はじめに

学校における日々の教育実践をより充実したものにしていくためには、常にその改善について、積極的な努力をしなければならないことは、言うまでもないことである。

学校の教育目標、各教科・領域の指導目標の達成をめざして年間の指導計画を作成し、適切な教材を準備することにより効果的な授業を展開していく営みは、教師の生命である。

これらの営みに必要な実践事例や研究成果をタイミングよく入手することができないものかという願いは、今にはじまったことではない。

このような必要とする教育情報をすみやかに得ることができる教育情報システムの構築が、国立教育研究所を中心に進められているので、そのことについて述べてみたい。

2 教育情報センター取り組みの経緯

教育情報センターの構想は、昭和47年11月10日に、学制百年記念日本教育資料館（仮称）に関する調査研究会（会長伊藤良二）から当時の文部省大臣官房長に報告されたことに始まる。

同報告は、教育諸活動を効果的に展開していく上で必要欠くことのできない情報を扱う機関として、「日本教育情報センター（Japan Education Information Center）」を設立し、内外の教育資料、情報を網羅的に収集、加工、蓄積し、これを積極的に教育関係者をはじめ、一般国民に提供していく中枢センターとする必要があることを提言している。

この報告を受けて翌年には、この構想を具体化するために、日本教育情報センターの設置運営について、調査研究会（会長天城勲）が置かれ、昭和48年12月11日に、その事業運営、機構・組織、

施設・設備、実施計画についての報告がなされた。

この報告によると、日本教育情報センターは、教育実践事例、教育研究文献、教育関係記事等教育に関する情報を収集し、処理して、利用者に提供するとしている。

ここまでの取り組みは、文部省が中心となって進められたが、昭和55年度に、その所管が文部省から、国立教育研究所へ移され、昭和56年度には、教育情報センターを含むわが国の教育情報システムに関する調査研究を行うため研究室として、「教育情報調査室」が置かれた。

また、昭和57年度には、これまでの教育情報センター構想に再検討を加えるため、教育情報センター構想に関する調査研究会（座長手塚晃埼玉大学教授）が設けられた。

さらに、昭和58年度には、「文献情報研究室」が教育情報の中の教育文献情報のデータベース、電子計算機による処理手法に関する調査研究を行うために設けられ、昭和59年度には、そのために使用する電子計算組織（FACOM M-340S）が導入された。

このように、着々とその取り組みが進められている。昭和60年3月14日には、先に設置された「教育情報センター構想に関する調査研究会」より調査研究会報告が発表された。

次に、その概要を述べることにする。

3 わが国の教育情報システムの在り方

1) 教育情報システム構築の意義

- (1) 教育情報を全国的な規模で組織的、計画的に提供する。
- (2) 国の内外で生成される教育情報の中から適切な情報を効率よく選び出して利用する。
- (3) 教育情報の流通に関し、国全体として組織化を図る。

2) 流通を図るべき情報の種類

<国内の教育情報>

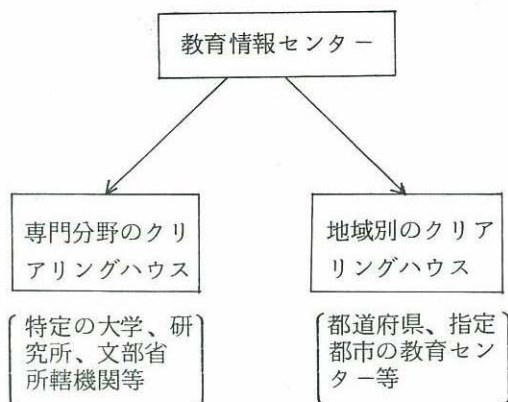
- (1) 学・協会誌、大学紀要等に掲載された教育研究論文
- (2) 学会等における教育研究報告
- (3) 教育学系の学位論文
- (4) 都道府県・市町村の教育センター等の機関誌に掲載された教育研究論文

- (5) 教育関係図書
- (6) 雑誌、新聞等に掲載された教育関係論文・記事
- (7) 教育実践報告
- (8) 教科書、教材等
- (9) 学力テスト問題、入試問題等の教育、測定・評価問題
- (10) 教育に関する公文書、法規、判例、議事録
- (11) 教育に関する史料
- (12) 教育に関する統計資料

<国外の教育情報>

- (1) 教育研究資料、特に定期刊行物等に掲載された教育研究論文
- (2) 国際機関、教育関係機関の機関誌等に掲載された教育研究論文、報告
- (3) 教育課程、教育制度等に関する情報
- (4) 雑誌、新聞等に掲載された教育関係論文、記事
- (5) 教育に関する統計資料

3) 教育情報システムにおける情報処理体制



(1) 教育情報センターの主な役割

- ① 教育情報システムで流通させるべき情報の収集
- ② データベースの作成
- ③ 二次情報の検索・提供

(2) クリアリングハウスの主な役割

- ① 一次情報（原情報）の収集
- ② 収集した一次情報について、教育情報システムで流通させる価値の評価・選択
- ③ 選択された一次情報に基づく二次情報

（一次情報の概要、所在、入手方法等に関する情報の作成）

④ 選択された一次情報の保管

⑤ 一次情報の検索・提供

4) 他の情報システムとの関係

- (1) 学術情報システム（文部省）との密接な協力関係を形成する。
- (2) 出版社、その他の民間の情報関係機関との、協力関係を形成する。
- (3) 国外の情報システムとの連携を保って、国外の教育情報の収集、国内の教育情報の提供とともに、教育情報の国際的流通に貢献する。

<国外の教育情報システム>

- (1) APEID (Asian Programme of Educational Innovation for Development)
- (2) ERIC (Educational Resources Information Center, U.S. A)
- (3) IBE (International Bureau of Education, UNESCO)
- (4) EUDISED (European Documentation and Information System for Education, Council of Europe)

4 教育情報センター構想

1) 設立の必要性

- (1) 教育情報システムの中核的かつ先導的な役割を担う。
- (2) 教育情報データベースの作成、その運用を含め、かが国全体の教育情報流通事業の推進について責務を負う。
- (3) 国内の今後設置されるべき教育情報に関するクリアリングハウスをはじめとする教育関係等との連携・協力関係を確立するための連絡調整を行う。
- (4) 国際的な教育情報の流通に関するわが国の総合的な窓口機関とする。

2) 事業内容

- (1) 教育情報の収集・提供サービス
- (2) 教育情報システム運営のための関係機関との連絡調整
- (3) 教育情報の作成及び利用に関する普及啓蒙及び技術的援助
- (4) 教育情報の流通に関する調査研究

3) 設置形態・組織等

(1) 設置形態

国研との密接な相互協力の下で運営される、全国共同利用方式の独立の事業体として設置する。

(2) 組織

事業部門と、研究部門で構成する。

(3) 施設・設備

職員の執務室、専用の電子計算機室及び関係機器の設置、一次情報の収蔵等をみこんでスペースを確保する。

5 おわりに

現在、国立教育研究所では、教育研究所・センター刊行論文データベース（3,283件）初等中等諸学校における実践的教育研究主題データベース（19,790件）教育学系博士修士論文題目データベース（7,486件）、教育学・心理学・大学紀要関係文献データベース（25,362件）、教育工学関係文献データベース（5,355件）、教科教育関係文献データベース（30,879件）以上6つの教育情報データベースが、稼働しており、各県ともその利用について、前向きに取り組みがなされているところである。

本県においても、その利用について準備をしており、去る3月10日に公開実験を試みたが期待通りの成果を得ることができた。

当センターが試みた方法は、現在国立教育研究所が実施している二つの通話方式であったが、両方式の試みに成功した。

この試験的な取り組みで、県内における教育情報データベースの構築について、その見通しを得ることができた。

なお、前述のデータベースのうち、教育研究所・センター刊行論文データベースについては、当センターの電子計算機にそのデータを移植してあるので、常時利用できるようになっている。

貴重な実践事例や研究の成果、教材等に関する教育情報を組織的、計画的、効果的に流通させることができるになれば、学校教育、社会教育をさらに、充実させることができるものとする。

研修を終えて

上野村立上野中学校教諭

前期研修員 佐久本 茂 美

うりずんの龍潭は穏やかな陽光につつまれ、周りの新緑が水面に映えてまばゆかった。

チャイムのない生活にとまどいを感じ、時に追われながら過ごしているうちに、いつの間にかシバ雨（タカのシーバイ雨）の季節が訪れた。

新設された私達の研究室は、歴史ある他の研究室と比べれば名ばかりの研究室であり、茶ダンスや茶器などをそろえることからスタートした。片隅の机とロッカーと茶飲みテーブルが、他の研究室のそれよりも、いかにまぶしかったことか。

入所式後、ザラ紙にマジックで「保健体育研究室」と力いっぱい書いた仮の表札を、研修仲間の岸本先生と思いを込めて扉に貼った。一週間後、本物の表札が届き、所長と研究主事、それに、私達研修員二人だけの保健体育研究室開きが行われた。沖縄の体育歴史にのこるであろう、感動的な一コマであった。それはまた、私達に課せられた貴重な思い、六カ月の研修期間をより充実させ研鑽に励まなければならぬ決意を深めた日でもあった。

私の研究内容は、生涯にわたって運動に親しみ運動を自発的・自主的に取り組める力を持った子どもを育てるための体育学習の進め方である。その具体的な方法として、選択制による陸上競技の学習指導である。

担当主事から「研究は文献のコピーではいけない。独自性がなければ、あなたの研究とは言えない。」と何度も書き直しさせられた。

これまで、深まりのある研究はしたことがなくましてや文才もない私にとっては、研究レポートの記述・構成は難しくて、ようやく研究の見通しがついたのは、研修期間も半ばを過ぎた頃だった。この研修を通して、研究の進め方を学ぶことがで

きたのは、大きな収穫である。

担当研究主事の範先生には、研究だけにとどまらず、御家族ぐるみで親しくさせていただいた。研究に立ち向かう時の厳しさと情熱、バイタリティーには大いに学ぶところがあった。さらに、研究から離れた時のママ（先生は時々ご自分をそう呼ぶ）のあたたかさがうれしかった。

筆舌に表わせない程、数多くのことをご教授下さったことを心から感謝しています。

この研修の最大の収穫は、数多くの文献に触れたことと、教師の生き方を所長や主事の先生方から学んだことである。また、新垣課長からは教育的な示唆も数多く受けることができたことは、私にとって身にあまる光栄である。さらに、研修員の先生方とも親交を深めることができた。環境は人をつくり、また、人を知ることは、最良の学習であると言われるが、お蔭で以前よりは、視野が広がったと思って感謝している。

思えば、今年の我家は、新入生が三人もいた。長女が中学、末の長男が小学、私が教育センターである。子供達の入学式には出席できなかったが、お互いに頑張ろうと誓い合った。娘二人には「お母さんを助けて心配をかけないように」息子には「お前は男の子だから、お父さんの留守をしっかり守るように」と話したが、この六カ月間で彼等はたくましく思いやりのある子に育っているのがうれしい。私の方も心おきなく研修に励むことができ、体重が3kgも増え待望の60kgになった。現場に戻れば、一週間で元に戻るかも知れないので、束の間の貫録を写真に撮っておこうと思っている。

また、慶良間での一泊研は、元はワミンチュであった私の心を蘇らせてくれた。あの満天の星空の下でくみ交わした酒の美味かったこと。オートリをまわしたことは失態であった。お許しいただきたい。

おわりに、すべての子ども達が、生涯運動に親しみ、健康で充実した運動生活が築けるように、六カ月間の研修の成果と多くの体験を生かして、さらに、地道に実践研究を重ねたいと思っている。

長期研修を終えて

今帰仁村立天底小学校
(1カ年研修員) 玉城真紀

20年余学校現場で日々の多忙さに追われ、家族と離れての長期研修に目が向かない私に「教師の技量を高めるために教育センターに応募したらどうか。」の校長先生の一言に二つ返事をしたのが2月上旬であった。生来楽天安な故に「学校現場よりは楽ができるだろう。」という安易な考えがあったのは事実であった。

しかし、入所後十日目に始まったテーマ検討会を筆頭に2カ月に1度是否応なしにやってくる中間検討会、最終報告書検討会、研究会表会とその過密な研修日程を知ったのは教育センターでの研修が始まってからであった。検討会の資料作成ではこれまでの不勉強さがつくづく身に浸ってきたしかも、これまで高学年のみしか経験のない者が低学年の「合科的な指導」を研究のテーマに掲げたのだから悩みが始まるのは当然である。今更研究テーマを変える訳にも行かず文献を頼りに合科的な指導の初歩から出発した。各県の教育センター、教育研究所、附属小学校の実践例から合科的な指導の全体像をつかむことができたのは5月中旬であった。

月日は過ぎるのみで研究の方は一向に進まず、その癖他人の研究の進み具合が気になり焦ってばかりでまるで受験生の心境である。5月の梅雨の頃にまず第1回目の鞭打症に悩まされた。つまり研修に対する肉体的な拒絶反応で首が全く動かないのである。主事の国吉先生は心配して早速近くのマッサージ師探しに東西奔走し、苦勞をかけたのである。登校拒否児の症状と同じで悩みが薄らぐと自然に直っていくパターンで先が思いやられる。

中間検討会の度の資料作成では自分の考えを適切な言葉で表現できず、わずか一行の文を書くに

も煙草を数本も吸う有り様で文書を書く難しさを痛感し、自分のもどかしさに腹が立つこと再々であった。また、自分なりに満足した文章でも中間検討会では8人の主事の先生方からは鋭い質問が矢のように飛んできて返答に窮することが多かった。「良薬は口に苦く、忠言耳に逆らう」のことわざを思いつつ自らをした激励しながら研修を進めていった。理科研修課の良さは、研修生のストレスが最高頂に達した頃に長研講座や所外研が組込まれており、野外で自然を観察することによって頭の疲れをいやすことができ体調維持の気配りは有難かった。

二泊三日の国頭、本部半島での生物・地学の研修では野帳を首にぶら下げて主事の説明をメモしている姿から、童心に戻って直接経験の楽しさを味わっている様子を垣間見ることができた。さらに、物理・化学の工場見学、初等理科の潮干帯の生物調査、家庭科の食品工場の見学もそれぞれ特徴があり楽しく有意義な所外研であった。

研修の後半は授業実践が中心でいよいよテーマの検証の段階である。指導細案を作成しての低学年理科、しかも合科的な指導の授業は全く初めての挑戦である。理論的な研究のみに基づいて作成した指導案で合科的な指導が効果的であるかを主事や研修生に授業を評価してもらい結論を出さなければならず不安なまま授業に臨んだ。しかし、「案ずるより産むがやすし」で低学年の子どもの無邪気さに助けられ、心が洗われるような場面に接し、教師は子どもと共に学び磨き合いながら向上していくのが理想的な姿ではないかと考えさせられた。そして、指導力の足りなさを子どもの学習意欲に支えられながら、テーマを検証することができたのは幸運であった。

この1カ年をふり返ってみると一人では数年かかっても修得できない密度の濃い研修であったと断言しても過言ではない。現場に帰っても自己研鑽に努力していきたい。

終りに、厳しさの中にも温か味のある指導助言、励ましの言葉を与えてくださった理科研修課の主事をはじめ所員の皆様に感謝しつつ筆を置く。

(S 61. 3. 25)

研修を終えて

沖縄県立沖縄工業高等学校教諭

後期研修員 松 永 久 夫

西原から琉大の側を通り抜け、中城村の奥間方面への坂を下り出すと中城湾を一望にすることができます。日によっては湾の上を灰色の雲が覆い、ちぎってできたような雲の切れ目が黄金色にふちどられ、そこから平な帯状の先が何本か海にそそぎその中でも陽の真下にあたるあたりはきらきらと強い光を反射し、何とも言えない光景になります。地上の方では集落の間をじゅうたんを敷きつめたように花を咲かせたサトウキビ畑が広がり、いかにも沖縄らしい風物を見せます。教職10年目を節目に、リフレッシュの意味で応募した今回の研修に通ったのは、そのような道でした。

いろいろな意味で「オクテ」を自認していますが、コンピュータに関しても同様で、甥からお下がり（PC 8001）を貰ったのがようやく1年半程前でした。それまで1年間ポケコンで修業を積みパソコンのオーナーになれたときは感激そのものでした。しかし少し使い込むにつれ次々に登場してくる新機種との差をまざまざと見せつけられ、より高性能機へと羨望の念はつのるばかりでした。右を見ても、左を見てもコンピュータの見える情報処理教育センターに来て花に囲まれた乙女の幸せ、と言うと何をオーバーなと言われそうですが正直に申し上げてそれに近いものを感じました。勿論そういうメルヘンチック（？）な良いことばかりではありません。研修のテーマであるCADを扱うために大型コンピュータの操作を覚えなければなりません。これまでほとんど自己流で培ってきたパソコン感覚から抜け出すのにまず苦勞しました。おおよその概念がつかめ、操作の手順がわかってきたのがようやく研修の半ば頃になってからでした。おまけに、まあ誰でも1度や2度は経験するものですが、時間をかけて作ったデータ

をSAVEするのを忘れることもたびたびで、泣くに泣けない思いを何度も味わいました。しかし私を上回る強物女史の存在を大きな慰めとなり、その失敗の度に2人で大笑いし明日への希望をつないで来ました。一方で自分達が機械化されてない証と都合良く受けとめオメデタさも暴露するハメになったりしました。

今回の研修においては実習教材の作成というメインテーマの他に、もう1つの大きな課題を持っていました。それはCADの登場で工業高校の建築科における従来の製図教育が根底から覆されるのではないかという不安に対する何らかの解答を得ることです。自分で実験にCADによって製図を行ってみて、CADはその名が示す通り設計製図を支援（Computer Aided Design）するものだという事を感じ次第に不安は解消の方向に向って来ました。確かにコンピュータはスピードや、データの保存とか検索など人間には真似のできない素晴らしい特徴を持っていますが、データの基

になる、いわば創作にあたる部分はあくまでも人間が行わなければならないということです。しかるにその創作の過程で線を引くという作業は単一的なものでなく、思考を増幅したりするための重要な要素だと思われるからです。言葉の持つ意味によって表現される小説をワープロを使用して書く作家が増えつつあると聞いておりますが、線そのものが作品としての意味を持つ製図とは根本的に性質が異なるものといえましょう。研修の目に見えない成果の1つとして、短期研修などで訪れる多くの方達と知己を得たことがあげられます。本などで得られない多くの知識を学ぶことができました。最後に私事になりますが、研修が始って間もない頃に生まれた娘が、寝返りを打とうかという程に成長しました。ちょうどコンピュータに対する私と同じ位じゃないかと思います。ここまで育てて戴いた安室先生始め情報処理教育センターの先生方にお礼申し上げます。

昭和60年度研究発表

領域	テーマ	内 容	発表会名	会 場	期 日	発 表 者
算 数 ・ 数 学	算数科における「問題」を考える	- 問題の種類 - よい問題とは - 小・中・高校一貫した教材分析とその指導法	沖縄県教育 研究所連盟 研究発表会	教育セン ター	昭和60年 5月24日	垣花 泰雄
	学習指導法の改善	1 動機づけ 2 指導法の改善～操作活動を取り入れて～ 3 わかりやすい授業をするために～教材のつながりを考慮しつつ～ 4 算数・数学科では「問題」そのものが教材である。 - よい問題とは - 問題の種類と思考の型	県指導主 事研修会	青少年研 修センタ	昭和60年 7月17日	
教 育 相 談	小学校における教師と児童のふれあいについての実践的研究	① ふれあいの種類 ② ふれあいの時間と場 ③ ふれあいの現状 ④ 教師と児童の望ましい人間関係 ⑤ 教師をとりまく諸条件	九教連 冬季総会・ 研究発表会	城山会館 (鹿児島)	昭和61年 1月24日	安次嶺敏雄
教 育 相 談	教育における人間観について現象学及び実存主義的アプローチ	1 教育における人間観 2 人間を見る目 3 実存主義的人間観 4 生徒の現象学的世界	沖縄県教育 研究所連盟 研究発表会	県立教育 センター	昭和61年 2月5日	金城 盛作
学 級 経 営	学級経営について	学級経営の考え方と今後の課題について	沖縄県教育 研究所連盟 研究発表会	県立教育 センター	昭和60年 5月24日	垣花 武信
	学級経営の現状と今後の課題	① 学校経営のすべての基盤をなす学級経営の重要さと、学級経営に対する教師の姿勢とアイデア等について。 ② 本県の学級経営の現状について	全国教育所 究所連盟総 会並びに研 究発表会	愛知県教 育センタ ー	昭和60年 5月29日	

領域	テーマ	内 容	発表会名	会 場	期 日	発 表 者
生 物	高等学校理科Ⅰ 動物の進化に関する観察	進化の学習に必要な基礎的・基本的な科学概念を、琉球列島に広く分布する大型の陸産貝の個体変異と蛛形類の種分化のメカニズムについて……の学習を通して形成させることをねらいとしている。	九教連 冬季総会・ 研究発表会	鹿児島 城山会館 研究協議 会(生物・ 地学)	昭和61年 1月24日	下謝名松栄
化 学	興味・関心 を高める実験 指導	一人ひとりに問題意識をもたせ実験方法や結果についても、深く考えさせるために個人実験を導入した。	九教連部 門別担当者 研究発表会	熊本県 立教育セ ンター	昭和60年 12月10日 と 12月11日	奥間 朝春
初 等 理 科	理科セット もの教具につ いて	昭和59年度に県下28小学校に実施した市販の理科セット教具の利用状況に関するアンケート調査の結果を報告した。	沖縄県教 育研究所連 盟研究発表 会	県立教 育センタ ー	昭和60年 5月24日	国吉 真隆
家 庭	小・中・高 校生の被服製 作技能の定着 度に関する研 究	児童生徒の被服製作技能の定着状況を把握するための調査方法に関する研究	九教連部 門別担当者 研究発表会	熊本県 立教育セ ンター	昭和60年 12月10日 と 12月11日	瀬長 栄子

昭和60年度長期研修員と研修テーマ

教科・経営研修課＜前期＞（昭和60年4月～9月）

氏 名	勤 務 校	研 究 テ ー マ
新 城 トシエ	喜 名 小 学 校	文学教材を想像豊かに読み深める指導
武 内 典 子	上 田 小 学 校	低学年の作文指導をどう進めるか
伊 波 アヤ子	城 前 小 学 校	自ら取り組む学習をめざす指導法の工夫
宮 城 幸 靖	宇 栄 原 小 学 校	子どもが生き生きと取り組む歴史学習の展開
佐久本 実	中 の 町 小 学 校	関数の考え方を伸ばす指導
嘉手苅 初 枝	座 安 小 学 校	関数的な見方・考え方を育てる指導
岸 本 光 哉	長 嶺 小 学 校	運動の特性を生かした体育学習の考え方進め方
上江洲 優	兼 原 小 学 校	豊かな心情を育てるための指導過程の工夫
安 里 盛 栄	志 真 志 小 学 校	全校児童が生きる児童会活動
佐久川 俊 英	長 嶺 小 学 校	一人ひとりを生かす学級指導の研究
平 良 俊 子	山 内 小 学 校	自閉的傾向児の対人関係を改善する試み
野 村 悦 子	志 真 志 小 学 校	教育工学的手法を取り入れた学習指導法の改善
伊 波 勉	城 南 小 学 校	授業にいかせるパソコン教材ソフトの作成と活用に関する研究
川 満 トシ子	浦 添 小 学 校	「やる気」を育てる教育相談
大 城 正 助	喜 屋 武 小 学 校	学級担任が行う教育相談
安 里 日出光	坂 田 小 学 校	「P. D. S」に生かす学校評価の研究
城 間 春 江	東 風 平 小 学 校	児童一人ひとりを生かす「学級経営案」の研究
金 城 宗 宏	桑 江 中 学 校	文学教材の豊かな読みの指導
宮 平 博 旦	今 婦 仁 中 学 校	教科の基本的な構造の趣旨を生かす指導の工夫
上 原 健 世	上 山 中 学 校	自ら学ぶことをめざす指導の工夫
渡嘉敷 順 治	越 来 中 学 校	形成的評価をとり入れた指導法
下 地 淳 雄	浜 中 学 校	ISM教材構造化法を用いた授業の設計
佐久本 茂 美	上 野 中 学 校	楽しい体育における選択制の授業づくりを求めて
大 城 徳三郎	兼 城 中 学 校	行動分析の方法と一人ひとりに合う教材（課題）を求めて
嘉手納 良 信	名 護 中 学 校	中学校における生徒指導体制づくり
津 波 政 彦	真 和 志 中 学 校	中学校における生徒指導の充実
安次富 勲	与 那 原 中 学 校	学年経営の組織・運営に関する研究
神 里 清 春	伊 良 部 中 学 校	意欲的な集団を育成する学級経営の工夫
儀 間 一 恵	大 平 高 等 学 校	感性を育てる授業の試み
金 城 孝 子	豊見城南高等学校	小説教材「読み」の深化をめざした授業
本 成 浩	大 平 高 等 学 校	ISM教材構造化法を取り入れた学習指導の工夫
野 甫 一 郎	知 念 高 等 学 校	CAI のプログラム作成に関する研究
当 銘 光 政	中部商業高等学校	カウンセリングを生かした生徒指導
高 嶺 朝 勇	知 念 高 等 学 校	ホームルームにおける教育相談

氏 名	勤 務 先	研 究 テ ー マ
神 里 信 子	仲 井 間 小 学 校	中学年の作文指導をどう進めるか。
照 屋 盛	鏡 原 小 学 校	作文指導の望ましい進め方
仲 底 善 章	登 野 城 小 学 校	子供が主体的に学習する指導の工夫
米 須 清 雄	北 中 城 小 学 校	文章題の指導
知 花 美江子	古 堅 南 小 学 校	関数の考えを生かす問題解決の指導
波照間 ミサ子	中 城 小 学 校	運動の特性を生かした体育学習の進め方
米 盛 栄 子	西 原 小 学 校	一人ひとりを生かす学級経営の工夫
前 泊 加代子	浦 添 小 学 校	魅力ある学級づくりのくふう
我那覇 英 一	松 川 小 学 校	音楽専科の立場を生かした教育相談
玉 城 洋 子	北 丘 小 学 校	小学校高学年における教育相談
高 良 節 子	城 北 中 学 校	ノートの効果的利用に関する基礎的研究
宮 里 善 光	港 川 中 学 校	公民的分野における「公民的資質」を育てる指導の工夫
伊 吉 栄 輝	浦 添 中 学 校	中学校歴史的分野における郷土史学習の展開
大 城 盛 次	仲 西 中 学 校	パソコンを利用した補充教材作成の試み
新 崎 治	平 良 中 学 校	形成的評価を生かした授業の改善
上 間 和 彦	今 帰 仁 中 学 校	学年経営の企画とその運営の研究
宮 平 光 雄	南 風 原 中 学 校	学校教育目標の具現化に関する研究
屋 宜 光 廣	北 谷 中 学 校	全ての教師がいつでもどこでもやれる教育相談をめざして
外 間 安 勝	与 那 原 中 学 校	学級担任の行う教育相談
喜 瀬 慎 蔵	名 護 中 学 校	自主的、自治的な生徒会活動を目指す指導の工夫
平安山 昭 子	石 川 中 学 校	中学校における進路指導
浦 崎 章	上 山 中 学 校	天体学習におけるパソコンの利用
名 城 克 哉	那 覇 中 学 校	天体学習におけるパソコンの利用
福 原 秋 夫	大 里 中 学 校	豊かな人間性を育てる道德教育
比 嘉 美智子	那 覇 高 等 学 校	国語教育における短歌学習
野 原 優 一	那覇工業高等学校	「宮古文学」教材化のための基礎的研究
吉 浜 忍	南風原高等学校	生徒に興味・関心を起こさせる授業
仲 松 勇	浦 添 高 等 学 校	数学に興味を持たせるための教材作成の試み
真栄平 克 雄	美 里 高 等 学 校	生徒理解を深める教育相談
久保田 富 雄	糸 満 高 等 学 校	カウンセリング・マインドを生かした授業
幸 地 弘	真 和 志 高 等 学 校	自治的活動を高める指導法の工夫
平 敷 美恵子	宜 野 湾 高 等 学 校	音声と文型の有機的結合をめざした学習指導
平 田 敬 徳	名護養護金武分校	重度・重複障害児の発達レベルに即した指導計画の試み
上 里 和 子	鏡 が 丘 養 護 浦 添 分 校	重度・重複障害児に数の意識化をはかるための系統的指導の試み

理科研修課

氏 名	勤務校	研修領域	研 究 テ ー マ	研 修 期 間
平 田 郁 子	与那原東小	初等理科	自ら学ぶ態度を育てる指導はどうすればよい か	昭和60年4月～ 9月
前 津 輝 美	明 石 小	生 物	第2学年「虫さがし」の素材研究	全 上
奥 間 洋 子	金 武 小	生 物	第3学年「植物の成長と季節」の素材研究	全 上
阿 嘉 秀 勝	与 勝 中	化 学	単元内進度別モデルによる個別学習への試 み	全 上
仲 本 英 博	小 浜 中	化 学	化学変化に関わる導入実験の選定	全 上
与那嶺 剛	三 和 中	物 理	仮説実験授業の方法を取り入れた電磁誘導 の指導	全 上
金 城 義 雄	小 緑 高	物 理	パーソナルコンピューターを利用した評価 とその工夫	全 上
友 利 成 寿	首 里 高	地 学	琉球石灰岩の教材化	全 上
玉 城 真 紀	天 底 小	初等理科	いきいきと活動する合科的な指導	昭和60年4月～ 昭和61年3月
兼 島 順 栄	川 崎 小	生 物	継続観察を生かした「花から実へ」の指導	全 上
嵩 原 安 哲	大 道 小	化 学	第4学年「もののとけかた」の指導の改善	全 上
与 儀 正太郎	天 妃 小	地 学	子どもが生き生きと活動し、充実感のもて る理科学習	全 上
平 良 京 子	志 真 志 小	初等理科	自ら問題意識をもち意欲的に取り組む理科学習	昭和60年10月～ 昭和61年3月
長 浜 哲 雄	豊 見 城 小	物 理	教材・実験装置の改善と指導の工夫	全 上
真喜志 昇	上 田 小	物 理	小学校理科学習におけるパソコンの活用	全 上
仲 村 仁 兵	羽 地 中	地 学	地域の地学素材の教材化	全 上
仲 西 勉	浦 添 中	化 学	原子・分子の粒子概念を育てる指導法の工夫	全 上
砂 川 恵 得	上 山 中	生 物	シロツメクサの就眠運動	全 上
真志喜 文 子	真 和 志 高	生 物	土壌動物の素材研究とその教材化	全 上
神 谷 保 江	小 緑 高	生 物	漫湖沿岸における帰化植物の種子散布の素 材研究	全 上
上江洲 清	コ ザ 高	化 学	化学史にみられる実験の活用	全 上
比 嘉 美代子	川 崎 小	家 庭	「住居と家庭」領域に興味関心を持たせる ための教具の製作	全 上
前 川 節 子	大 里 中	家 庭	青少年向き献立学習の効果的な指導法の研 究	全 上

氏 名	勤務校	研修領域	研 究 テ ー マ	研 修 期 間
内 原 英 機	沖縄工業高	情報技術	アセンブラの指導法	昭和60年4月～ 9 月
呉 屋 盛 市	美里工業高	"	図形処理及び製図	全 上
平安名 栄 正	那覇商業高	情報処理	「情報処理」における教材開発	全 上
松 永 久 夫	沖縄工業高	情報技術	「ICAD/SDS による建築実習教材の作成」	昭和60年10月～ 昭和61年3月
知 名 和 子	中部商業高	情報処理	「情報処理 I における実習内容の工夫」	昭和60年4月～ 昭和61年3月

職 員 人 事 異 動 者

昭和 60 年 4 月 1 日

転 出 者					転 入 者				
職 名	氏 名	新 所 属		備考	職 名	氏 名	旧 所 属		備 考
		所 属 名	職 名				所 属 名	職 名	
庶務課長	神 谷 一 郎	土地調査事務局 企画管理課	課長補佐 兼庶務係長		庶務課長	国 吉 宣 武	渉外労務課	課長補佐	
情報処理 教育課長	漢 那 用 全	教育センター	所 長	兼務 解除	充て情報処理 教育課長	安 室 肇	教育センター	充て 指導主事	充て指導 主事兼務
研究主事	佐久本 敏	首里東高	教 諭		研 究 主 事	島 袋 曠	嘉手納高	教 諭	
"	神 山 正 夫	沖 工 高(定)	教 頭	昇任	"	上 原 実 治	美 里 高	"	
"	嘉 数 喜 孝	美 咲 養 護	教 諭		"	照 屋 盛 栄	美 咲 養 護	"	
"	小 渡 良 一	宮 城 中	教 諭		"	安次嶺 敏 雄	前 島 小	"	
					庶務係長	新 里 修	那 覇 教 育 所 事務	事務主事	昭和60年 1月15日

職員人事異動者

昭和61年4月1日

転出者				転入者					
職名	氏名	新所属		備考	職名	氏名	旧所属		備考
		所属名	職名				所属名	職名	
所長	漢那用全	定年			所長	石原昌弘	首里東高校	校長	昇任
教科経営 研修課長	新垣秀雄	北中城高校	校長		副所長	大城正英	真和志高校	教頭	兼 (昇任)
					教科経営 研修課長	大城正英	"	"	
庶務課長	国吉宣武	退職			庶務課長	西銘正毅	財務課	振興係長	昇任
研究主事	金城盛作	中部商業高校(定)	教頭		研究主事	安里昌男	中部商業高校(定)	教頭	
"	東江優	総務課	主幹		"	高里良春	中部商業高校	教諭	
"	城間正栄	佐敷中学校	教頭		"	高野精勇	港川中学校	"	
"	平山良明	那覇高校	教諭		"	吉川安一	名護商業高校	"	
"	仲宗根清徳	義務教育課	充て 指導主事		"	棚原正栄	桑江中学校	"	
(充て) 指導主事	瀬長栄子	首里高校	教諭		(充て) 指導主事	長嶺憲次	豊見城南高校	"	
					"	宮里進正	那覇市 教育委員会	指導主事	
					"	米須清一	嘉手納中学校	教諭	
					"	仲元清輝	那覇工業高校	"	
					"	大城正大	学校指導課	(充て) 指導主事	
					"	新正裕	浦添工業高校	教諭	
					"	亀谷末子	学校指導課	指導主事	
					主事補	玉城ゆかり	中頭教育事務所	主事補	
					用務員	當間エミ子	新採用		
					主幹	山城幸儀	那覇商業高校	教頭	

おもな図書資料紹介

(昭和60年4月～昭和61年3月)

書名	編著者	発行所
多変量解析プログラム集	渡 正光	工学図書
特別活動指導法事典	宇留田敬一	明治図書
創造の工学	服部敏夫	開発社
味覚の科学	佐藤昌康	朝倉書店
被服学事典	小川安朗	"
原色台湾蝶類大図鑑	白水 隆	保育社
日本プランクトン図鑑	山路 勇	"
太古の世界を探る	L.B ホール ステッド	東京書籍
子どもを生かす社会の 教え方	歓喜隆司	明治図書
新算数科指導法事典	片桐重男	明治図書
古生物学Ⅲ・Ⅵ	鹿間時夫	朝倉書店
小学校社会科指導細案	溝上 泰	明治図書
新しい文章表現力の指 導	井上敏夫	"
日本物理学史上・下	日本物理 学 会	東海大学
新版物理定数法	飯田修一	朝倉書店
新物理実験図鑑Ⅰ・Ⅱ	茅 誠司	講談社
物理実験ハンドブック	藤井 清	"
ライフサイエンス物理 学	石井千頼	廣川書店
最新地理学辞典	藤岡謙二郎	大明堂
新版郷土史辞典	大塚史学会	朝倉書店
新算数指導講座①～⑩	伊藤一郎	金子書房
物理学小辞典	J シュール	共立出版
言語障害児教育の実際		日本文化科 学社
ビジネス教育の教授、 学習システム上・下	雲英道夫	多賀出版
中学校教育法	安田猛男	図書文化
小学校教育法	丸本喜一	"

書名	編著者	発行所
琉球弧の地質誌 現代保健体育学体系	木崎甲子郎 竹之下休 蔵 他	沖縄タイムス
新理科指導法事典 プリンシピア	武村重和 アイガソク ニュートン	明治図書 講談社
現代スポーツトレーニ ング	猪飼道夫	大修館
学校新聞づくりマニユ アル	神戸與夫	東京法令出 版
原色化学実験プロセス 図説	井上友治	黎明書房
授業実践に生かす教育 工学シリーズ	大内茂男	図書文化
教育評価法全書小学校 ・中学校	橋本重治	"
講座授業成立の技術と 思想	吉本 均	明治図書
数学的な考え方と問題 解決	中島健三	金子書房
国語科到達度評価指導 事例集	水川隆夫	明治図書
人間の生き方を学ぶ特 別活動		明治図書
作文の基礎的、基本的 事項の指導	瀬川栄志	"
子供の成長の発達	ブルーナガ ートン	新曜社
住居衛生学	花岡利昌	朝倉書店
授業改造の技法	坂元元昂	明治図書
化学の研究調査と文献	川村信一郎	南江堂
化学と人間の歴史	H. M レス ター	朝倉書店
物理学史 I	広重 徹	培風館
化学系実験の基礎と心 得	頼実正弘	"
環境科学実験法	山根一郎	博友社
化学・物質と現象	村上悠紀雄	三共出版
マイコンで化学を学ぶ	大塚功三	東京化学同人
生徒指導基本事例集	笠間達男	学事出版
話し合い活動のつまず きと指導	大石勝男	明治図書

書 名	編著名	発行所
公民的分野の授業理論	柿沼 利昭	明治図書
授業の理論をどう作るか	宇佐美 寛	〃
主体的児童詩教育の理論と方法	日本児童詩教育研究所	〃
家庭科教育史	常見 育男	光生館
漢字の系統的指導	小林 一仁	明治図書
発達的特質に即した集団活動の段階的指導	杉田 儀作	〃
地理教育の方法	町田 貞	〃
現代授業研究の批判と展望	安彦 忠彦	〃
登校拒否	小泉 英二	学事出版
児童・生徒の自主性と規律	加藤 隆勝	明治図書
説明的文章の指導過程論	渋谷 孝	〃
体育の学習と指導	竹之下休蔵	光文書院
授業設計と評価のデータ処理技法	佐藤 隆博	明治図書
マイコンインターフェースの作り方、使い方	志水 英二	日刊工業新聞社
パソコンによる数値計算	平田 光徳	朝倉書店
けい光とりん光	R, S BECKER	東京化学同人
短作文指導の方法	大西 道雄	明治図書
怠学の心理とその指導	桒田 澄	学事出版
文学作品を利用した日本史学習	佐藤 照雄	〃
国語科の到達度評価入門	塩尻 幸雄	明治図書
学校掃除	沖原 豊	学事出版
生徒指導主事の実務	堀 久	〃
教師の生きかたと授業	上田 薫	明治図書
スポーツマンと体力	ザチオルスキー	ベースボール社
化学実験の基礎知識	佐藤 弦	丸善(株)
物理学史 II	広重 徹	培風館
創造の化学	林 太郎	裳 房
化学の理解	岩城・良次郎	三共出版
実験物理の歴史	奥田 毅	内田光鶴

書 名	編著名	発行所
新しい住居の科学	清家 清	同文書院
マイコンBASIC規格表	堀内 征治	CQ出版社
住居領域の実験実習	大島 愛子	家政教育社
ことばのテストえほん	田口 恒夫	講談社
人類の起源	リチャードリーキー	〃
子どもをはげます評価のくふう	香川 英雄	全教図
奄美・沖縄岩石鉱物図鑑	加藤 祐三	新星図書
無機化学命名法	山崎 一雄	南江堂
発達運動学	松浦 義行	道 書院
中学校学級経営の実際	松岡 寛	文教書院
中学、高校体育授業の研究	宇土 正彦	大修館
体育実践の見かた、考えかた	中村 敏雄	〃
問題行動とその指導	飯田 芳郎	文教書院
生徒指導の研究と実践	〃	〃
水泳の段階的指導と安全管理	大庭 修一	ぎょうせい
学年、学校経営の計画展開評価	木川 達爾	〃
児童生徒の問題行動	高橋 栄	文教書院
体育の授業分析	小林 篤	文修館
スポーツと年齢	高石 昌弘	〃
人 格	小尾 雄	明治図書
教育課程編成と工夫実践	柴田 義松	学 研
これからの算数教育	坂元 信吾	東洋館
心身に障害をもつ子	平井 信義	日本文化科学社
問題をもつ子の指導	〃	〃
ことばの学習	ベーカー-BL	学 苑 社
一時間をどう構成するか	鴻巣 良雄	明治図書
小学校授業実践・資料①	河野 重男	〃
障害児の感覚運動指導	坂本 龍生	学 苑 社
反応構成の新技术	坂元 昂	明治図書
意味と無意味	M メロポンティ	みすず書房

書 名	編著名	発行所
中学校学年経営の実 マイネルススポーツ運動学	高橋幸三郎 クルトマイ ネル	文教書院 大修館
教育課程編成の創意と工夫（原理）	柴田 義松	学 研
小学校授業実践・資料②	中野 重人	明治図書
化学の開眼 特別活動基本課題の実践的解明	吉田 高年 青木 孝頼	東京教育社 明治図書
漢字教育の基礎研究 障害をもつ幼児の教育	小林 一仁 寺山千代子	“ 日本文化科学社
SI 単位と物理化学量	MLMG I as han	化学同人
中学校クラブ活動の計画と展開	宇留田敏一	明治図書
学級話し合いの指導と技術	岸田 元美	“
小学校学級指導、学級会活動の計画と展開	相川 高雄	“
ITPAの理論とその活用	旭出学園 教育研究所	日本文化科学社
社会科子どもの発言の生かし方	日台 利夫	明治図書
生徒指導の基礎知識 特別活動の経営と全体計画	笠間 達男 宇留田敏一	学事出版 明治図書
子育ての中の基礎体力づくり	文部省	第一法規
住居と生活 文学の教材解釈 現代教育評価論 ムーブメント教育	金子 幸子 須田 実 梶田 敬一 肥田野 直	学芸図書 明治図書 金子書房 日本文化科学社
学級経営の計画と実践 水 泳 社会科授業のねらいと教材化	鈴木 博 杉原潤之輔 溝上 泰	あゆみ出版 泰流社 明治図書
国語科到達度評価の理論と方法	水川 隆夫	“

書 名	編著名	発行所
現代児童文学教材の解釈と指導	萬屋 秀雄	明治図書
化学指導法事典	むぎ書房	“
障害の重い子の教材教具	金沢 四郎	日本文化科学社
子育ての中の基礎体力づくり	文部省	第一法規
教材研究開発の新技术一読総合法入門	坂元 昂 児童言語研究会	明治図書 “
人は人によりてのみ マイコンのためのインタフェース入門	柘植 明子 大原 茂之	“ オーム社
ちえおくれの子の機能の訓練用教材教具	田川 元康	日本文化科学社
電気化学 授業実施の新技术 授業評価技法の実践研究	松野 武雄 坂元 昂 “	大日本図書 明治図書 “
体育の授業研究 よみがえった授業	小林 篤 ジョージクラウン	大修館 学事出版
描画による心の診断	岩井 寛	日本文化科学社
ITPAによる学習能力 障害の診断と治療	サミエル A	“
中学校生徒会活動の計画と展開	宇留田敬一	“
地理的分野の授業理論 発達を促す教材、教具と指導	高山 昌之 学 苑 社	明治図書 細田迪夫
型紙教育の基礎知識 制御用マイコンの作り方、使い方	大平富美子 北川 一雄	家政教育社 オーム社
たのしい教室づくり エレクトロニクスを中心とした年代別科学技術史	今井 哲男 城阪 俊吉	東陽出版 日本工業新聞社
概説 佳 居 学 食品学実験法 体育とスポーツの社会学	花岡 利昌 川村 亮 菅原 禮	光生館 朝倉書店 不味堂出版

書 名	編著名	発行所
運動教材 715 と授業の展開	西 順一	日本体育社
問題から問題へ	竹内 芳男	東洋館
星座アルバム	藤井 旭	誠文堂新光社
生き生きした学校教育を創る	梶田 叡一	有 素閣
カウンセリングの理論	国分 康孝	誠信書房
佳生活学	扇田 信	朝倉書店
トラマとしての授業の成立	吉本 均	明治図書
性格形成と性格分析	霜田 静志	誠信書房
佳 教 育	佳環境	ドメス出版
言語と自然	教育研究会	
	Mメルロニ	みすず書房
	ポンティ	
中学校学級指導の計画と展開	宇留田敬一	明治図書
陸上競技	織田 幹雄	旺文社
総合実践の研究	古室 俊行	多賀出版
学級経営の理論と方法	木川 達爾	めいけい出版
自己分析	K ホールネイ	誠信書房
CP/Mの使い方	前田 英明	工学図書
歴史的分野の授業理論	小俣 盛男	明治図書
マイクロコンピュータ	佐々木彬夫	近代科学
応用事例集		
新訂カウンセリング	伊藤 博	誠信書房
学校体育カリキュラムの発表	ジョンケー	不味堂出版
小学校学級経営事典	教育技術研	小学館
	究所	
言語発達	PSデイル	新曜社
日本の食生活	鈴木 秀夫	朝倉書房
日本の佳生活	吉阪 隆正	〃
オートマトンと人間	須藤 衷	コロナ社
パーソナルコンピュー	高橋 啓介	工学図書
タのためのデータ通信		
Disk BASIC 入門	飯田 大野	アスキー出版
体育社会学	竹之下休蔵	大修館
文学重要教材の授業展	全国国語教	明治図書
開	育実践研究	
	会	

書 名	編著名	発行所
指導と評価の一体化	水越 敏行	明治図書
情意領域の評価と指導	〃	〃
原色日本昆虫生態図鑑	巨 水 隆	保育社
チョウ		
〃	小島 匡夫	〃
カミキリ		
〃	石田 昇三	〃
トンボ		
授業評価と自己研修	水越 敏行	明治図書
評価研究を通じた学校の創造	〃	〃
新しい教材開発と評価	〃	〃
日本海洋プランクトン図鑑	山路 勇	保育社
日本淡水	〃	〃
学習指導と教育心理検査	水野 彦	〃
	橋本 重治	図書文化
教育評価の考え方	〃	〃
教育指導の評価	〃	〃
学級学校経営の評価	〃	〃
生徒指導と性格行動道徳性の評価	〃	〃

所報『龍潭』第15号

昭和61年3月

発行人

漢那用全

編集委員 国吉宣武・金城武夫・新崎直恒・瀬長栄子

発行所 沖縄県立教育センター

〒903 沖縄県那覇市首里当蔵町1-5

電話 0988(87)6216・(84)4042